

第 3 回吉野町地域公共交通協議会 議事録

日 時：平成 20 年 10 月 27 日（月）13：30～15：00

場 所：吉野町中央公民館 2 階第 3・4 研修室

出席者：

所属・役職	氏 名	備 考
近畿運輸局奈良運輸支局 首席運輸企画専門官	井上 景之	
近畿運輸局奈良運輸支局 運輸企画専門官	宮田 広美	
奈良県吉野土木事務所 計画調整課長	小西 勝之	
奈良県吉野警察署 交通課長	信田 伸治	
奈良県土木部道路・交通環境課 主査	杉本 勝哉	
吉野町区長連合会	竹田 靖	
吉野町老人クラブ連合会 会長	岡本 元一	
社団法人吉野町社会福祉協議会 副会長	岩城 輔教	
奈良県交通運輸産業労働組合協議会 奈良交通労働組合執行委員	大西 秀樹	
社団法人奈良県バス協会 専務理事	西本 光良	
奈良交通株式会社乗合バス事業部運転者派遣センター課長	中前 浩也	
奈良交通株式会社乗合バス事業部 課長	刃谷 茂樹	
吉野町タクシー協会 会長	戌亥 一男	
吉野町教育委員会 学校教育課長	出合 義昭	
吉野町 副町長	小松 正	会長
吉野町企画政策課 課長	大北 雅祥	事務局
吉野町企画政策課 課長補佐	上林 勝則	事務局

配布資料

議事次第

出席者名簿

資料 1 アンケート調査・利用実態調査の結果

資料 2 吉野町地域公共交通総合連携計画基本方針（案）

会長あいさつ

第2回協議会で説明したアンケート調査を実施し、その結果が得られた。今後は、アンケートで得られた結果を十分に踏まえて計画案を作成したい。より良い地域公共交通総合連携計画がまとまるよう、委員各位の活発なご議論をお願いしたい。

議事内容

(委員)

資料1の27ページに示された小型車両の使用可否について、アンケート調査の質問のし方が不適切ではなかったか。現在の福祉バスはマイクロバスで運行されているが、それを利用している人に「小型車両でも良いか」と尋ねても、「構わない」とは答えづらい。

(事務局)

利用者の少ない路線では小型車両の導入も視野に入れて検討しようと考えているが、アンケートではその可能性を探るために質問したものである。マイクロバスが適切な路線では当然マイクロバスで運行するし、アンケートの結果のみから車両の大きさを判断するものではない。

(委員)

上市巡回線という路線が旧道を通って立野口に行くような計画になっているが、国道169号が旧道を分断するところがあり、そこでは交通の流れが輻輳し、事故の危険が高い。計画に当たってはその点も留意されたい。

(委員)

住民の立場からは、吉野病院を起終点としてバス路線を検討することは大いに結構である。

(委員)

スクールバスの効率化が提案されているが、スクールバスは朝夕の登下校のほか、学校行事に合わせた臨時運行、夏休み等のクラブ活動の遠征などでも使用している。福祉バスと共通で使用する案になっているが、そうした点も考慮してもらいたい。

また、運行距離が長くなると運転手の条件にも関わってくることも考慮いただきたい。

なお、八木駅～上市駅～国栖経由の路線バスについて、利用者が減少していることから運行回数を見直すことになっているので、この場でお知らせしておく。

(委員)

アンケートの結果などから、福祉バスの利用者がこんなに少ないのかと驚いている。病院の方で受け入れ態勢を作ることなどが大事だと思う。

樫尾地区では老人会のメンバーが 53 人居る。運転免許を持っているのは 20 人で、そのうち 15 人は 75 歳以上、10 人は 80 歳以上である。一方で 13 人は自分自身のほか家族を含めても運転免許を持っている人がおらず、病院に行く交通手段が福祉バスに限られている。このような事情も考慮して計画を作っていただきたい。

(委員)

小型車両とはどのようなサイズの車両を使うのか。デマンド方式とはどのような形で実施するのか。

(事務局)

小型車両とは、マイクロバス、ジャンボタクシー、セダン型のタクシーなどが該当する。デマンドについては、タクシー会社などが既に持つておられる予約・無線配車のシステムを活用できれば効率的である。

(委員)

11 人乗りを境目にタクシー(11 人以下)かバス(11 人超)になる。デマンド方式については、路線長や地区の広さなど、適したところと適さないところがあるのでよく検討していただきたい。また、デマンド方式は運行管理が難しいところもあるので、その点にも留意していただきたい。

(委員)

幹線と巡回線の組み合わせによってネットワークを構成する提案であるが、いろんな地域の人が使えて良いというメリットがある一方、運行費用が高くなる。

また、デマンドシステムの整備に対しては補助金(車両の購入と設備に対して 1 / 4 補助)の制度もあるので申し添える。

(委員)

旧道を通行する場合、狭い道路で乗り降りすることになるので、安全性の確保についても検討が必要である。

(事務局)

来年度はこの計画案に基づき、国の補助を受けて実証運行を実施したい。その申請書の提出が 2 ~ 3 月と見込まれ、1 月中にはまとめが必要である。

こうしたことを踏まえ、第 4 回協議会を年内に開催したい。